

= おかげさまで =

12月1日、組織強化拡大局のM山中執よりメールが届いた。「12月の委員長メッセージがありましたら、ご指示ください。(行き違いの際はご容赦ください!) よろしくお願ひいたします。」まだですか?の丁寧な催促の一文。皆さんの中にも、気にかけてくれる方がいたらありがたい。

けっしてサボっていたわけではなく、例年、12月は一年の締めと来る年の思いも含めて中旬をめどに発信している。ご理解のほど…。

さて、今年は皆さんにとって、どのような1年であったらうか。私の1年は、年明け加盟組合代表者会議を琵琶湖グランドホテルにて開催、加盟組合の周年行事で長崎、研修会に呼ばれ兵庫、福山と出張、2月にはAP20春季取り組みの総合組合激励オルグ、経営申し入れと出張や外務が続いたが、3月からはパツタリなくなった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛、緊急事態宣言などによって、GWも家に帰れず、5月は単身赴任寮の狭い部屋の中で在宅勤務、休日にとすることといったら人と接しないマスクをしてのランニング。走りすぎて膝に水がたまつたのは先の委員長メッセージで紹介のとおり。コロナへの恨み節はおさまらない。

そのコロナ禍、もう間もなく1年になろうとしているが感染リスクにさらされながらも、命を守り、人を守るために献身的な対応をされている医療従事者・介護職、さらには運輸業やサービス業の皆さんをはじめ、私たちの生活や社会を支えてくれているエッセンシャルワーカーの皆さんのことを想えば、私の愚痴など取るに足らぬ些細な事、どうでもよい話…申し訳ない。

ところが、こうした皆さんに、あるいはコロナウイルス感染者に対して、心無い言葉で誹謗・中傷、差別が後を絶たないという。感謝こそすれ、なんとも悲しい話である。しかも、その誹謗・中傷によって、ご家族まで辛い思いをされているというから許せない。新型コロナウイルスに感染するよりも感染後に個人情報さらされ、誹謗・中傷の対象になる恐怖、感染者に二重の苦しみを与えているという。

コロナが問題なのか、差をつけたがる人間の持つ本性とは思いたくない。最近、故郷の先輩に電話をした。第一声は、「元気にしちよるかえ…」「おかげさんで」と返す、ありがたいことである。“おかげさまで”は、神仏の加護の意味がある“御蔭”(おかげ)が語源らしいが普通に感謝の気持ちを表す言葉。お互いが、そんな気持ちを持ち合うことが厳しい経済・社会情勢の中で、今こそ必要なのではなからうか。

今年の流行語大賞の30語にノミネートされたお笑いのペコパ、「時を戻そう」。漫才・コントの中の面白いフレーズだが、過ぎた時間は戻らず、口から出した言葉も戻らない。相手の立場に立って、物事を考え、行動することの大切さをあらためて感じる。第三波といわれる感染拡大により、帰省が叶わず、この年末・年始も家族、親せきとだんらんの時間を過ごすことができない人も多いだろう。

しかし、会えないからこそその募る想いを大切にしていだければと思う。かくいう私は、帰れるのだろうか。金属労協の協議委員会でよい言葉を聞いた。「逢えないけれどつながれる。」手紙でも、電話でも。オンラインで元気な姿を見せることもできる今、“おかげさまで”、使ってみてはいかがか。

来年は、丑年。ことわざに「牛の歩みも千里」という言葉がある。怠らずに努力を続ければ、何事も大きな成果をあげる事ができる; 牛のように遅い足取りでも、たゆまず歩き続ければ、やがては千里の遠くまで行く事ができるという意味。

コロナとの付き合いは今しばらく続くだろうが、三密回避、うがい・手洗い・手指の消毒、マスクの着用。命を守る安全活動も同じ、ルール順守と「ご安全に」の気持ちを込めた挨拶、愚直に・愚直に。互いの思いやりと努力で明るい年を迎えたい。

ご安全に

2020年12月11日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一